

〈2018年度日本天文学会天文教育普及賞〉

## 日本天文学会天文教育普及賞

土 居 守

〈天文教育普及賞選考委員会委員長・東京大学大学院理学系研究科〉

e-mail: doi@ioa.s.u-tokyo.ac.jp

近年、科学と社会との接点が急速に深まり、教育普及活動の重要性がますます高まっている中、2018年度に日本天文学会天文教育普及賞が設けられた。本稿では、創設に至る経緯を紹介する。

2015年5月の代議員総会において、故海部宣男代議員から、教育普及が天文学の進歩に重要な役割を占めるようになっており、これを表彰するシステムを創設してはどうかとの提案がなされた。20年ほど前にも、天文教育委員会などから同様の提案が出されたこともあったとのことである。代議員総会での議論の後、設立に向けて理事会が中心となって検討を進めることとなり、2015年9月の理事会において、天文教育普及賞設置検討のためのワーキンググループ（WG）が半田利弘副会長を主査として海部宣男・木村かおる・野田学・福江純・山岡均の6名で設置された。WGでの検討の後、2017年5月の理事会において、天文教育普及賞選考委員会を新設する細則の改定案を、委員会内規案と共に代議員総会へ提出することとした。2017年6月の代議員総会で審議が行われ、どういう趣旨の賞となるのかのイメージを共有して欲しい、プロとしての普及活動の扱いをどうするのか等の意見があり、示された内規案だけでなく、賞の趣旨を示す文書、委員会の申し送り事項案も加えて、再度代議員総会で審議することになった。

理事が交代となったため、土居守新副会長もWGに参加し、6月28日に品川駅付近で会合を開き、趣意書を海部氏が、委員会内規・委員会申し送り事項案を半田氏が改訂していくこととした。

WGでの検討の後、趣意書・委員会内規・委員会申し送り事項の案が2017年9月の理事会を経て代議員総会へ提出され、審議の結果、細則を改定して天文教育普及賞選考委員会を設置することを全会一致で承認した。2017年11月2日に理事会による電磁的方法による決議で委員会が設置された。初代のメンバーは土居守（委員長）、井上毅、木村かおる、中道晶香、西村昌能、野田学、福江純（互選で副委員長に選出）、山岡均、渡部潤一の各氏である。申し送り事項では、選考委員会は、天文学の研究を主たる業務とする者、天文教育やそれに関する研究を主たる業務とする者、および天文の普及活動を主たる業務とする者、各2名程度から構成されることが望ましいとされていたが、当初は慎重を期して各3名ずつでスタートすることとなった。

内規や細則はホームページで読むことができるので、ここでは提案者の海部氏を中心となって草稿された趣意書を以下に紹介する。

### 日本天文学会天文教育普及賞の趣旨と説明

2017年8月天文教育普及顕彰制度検討ワーキンググループ

【教育普及賞の主旨】

天文の教育（社会教育を含む）と普及の活動は、

天文学のすそ野の拡大に不可欠の役割を果たしてきた。近年、科学と社会との接点が急速に広まり深まっているが、その中で天文学においても教育・普及活動は質・量ともにますます盛んになり、重要性が高まっている。教育普及賞は、天文教育や普及活動の分野で特に顕著な貢献をされた個人や団体を公募に基づいて選考・顕彰し、その活動と成果を讃えるとともに、天文分野における教育・普及活動のさらなる発展を期するものである。

#### 【教育普及賞を設置する背景と理由】

天文の教育（社会教育を含む）および普及に関する活動は、国内でも世界レベルでも科学の他分野に比べ極めて盛んに行われてきたが、科学と社会との距離が縮まり相互依存を高める状況の中で、近年さらに急速な広がりを見せている。国際天文学連合では世界天文年2009の成功に続き、OAD (Office of Astronomy for Development) を南アフリカに、OAO (Office for Astronomy Outreach) を日本に、さらにOYA (Office for Young Astronomers) をノルウェーに設置することで教育・普及活動を世界に広げ、画期的な発展を遂げつつある。日本には世界有数の公開天文台や科学館・プラネタリウムがあり、そこを中心とした活動が盛んなほか、日本天文学会、教育・普及・天文愛好家などの自主的団体、学校の天文クラブ、大学、研究所、関連企業などを基盤として、高いレベルで教育・普

及活動が展開されてきた。加えて近年の世界天文年や系外惑星の命名に関する NameExoWorld などの活動、また自治体やNGO等とも結んだ創意ある活動の拡がりも目覚ましく、社会的にも国際的にも存在感を高めている。宇宙への関心は科学への入り口でもあり、天文学の魅力を子供たちや多くの人々に広げてゆく教育普及活動は、天文学・科学の未来に向けて不可欠な役割を果たす。日本天文学会としてもこうした目覚ましい教育普及活動を応援し、その推進を図る必要があり、そのためにも教育普及賞の設置が求められる。

第一回授賞は2019年3月に行われた。受賞記事は本稿に続いて紹介されている。また第二回の推薦のお願いが天文月報8月号会務案内 (p. 586) に掲載されている。天文学における教育普及のさらなる発展のために、ぜひとも積極的に候補者のご推薦をいただければ幸いである。なお副賞の楯は、国立天文台天文シミュレーションプロジェクトの加藤恒彦氏に依頼をして作成した、ヒッパルコス衛星やガイア宇宙望遠鏡による実際の観測データに基づいて夜空の星々や天の川を投影した天球を、クリスタルに3次元でレーザー刻印したデザインとなっている (図1)。



図1 天文教育普及賞副賞クリスタル楯。

### The ASJ Award for Education and Public Outreach in Astronomy

Mamoru Doi

*Chair of the Committee for the Award; School of Science, University of Tokyo*

Abstract: Recently, the public at large are interested in basic science such as Astronomy more and more, and activities of education and public outreach for Astronomy become very important. Hence, in 2018, the Astronomical Society of Japan established the ASJ Award for Education and Public Outreach in Astronomy. How the award was proposed is summarized in this article.